

イヒナビ

ihinavi

旭化成ホームズ株式会社
東京法人支店



～2026年の補助金情報を活用して、賢く家を建てよう～

補助金を知ることが、家づくりの第一歩

**補助金を活かすには
性能と進め方を一緒に考える**

HEBEL HAUS

ALL for LONGLIFE

～2026年の補助金情報を活用して、賢く家を建てよう～

補助金を知ることが 家づくりの第一歩

補助金

みらいエコ住宅の補助額は最大125万円

2026年に家を建てるのであれば、建物そのものの性能だけでなく、どの補助制度を活用できるかも重要です。国の「住宅省エネ2026キャンペーン」は、新築とリフォームを対象に4つの補助事業を用意し、省エネ性能の高い住まいづくりを後押ししています。

具体的に、新築住宅では、もっとも高い水準のGX志向型住宅が1戸あたり110万円、寒さの厳しい地域では125万円です。長期優良住宅は75万円または80万円、ZEH水準住宅は35万円または40万円となっています。



補助の中心になる3つの住宅タイプ



新築で注目したいのは、GX志向型住宅、長期優良住宅、ZEH水準住宅の3つです。公式情報では、GX志向型住宅はすべての世帯が対象で、長期優良住宅とZEH水準住宅は子育て世帯または若者夫婦世帯が対象とされています。補助額の基本額は、地域区分などにより差があります。公式サイトでの情報収集も大切ですが、分かりにくい点多々あるので、補助金を活用したい場合は、ハウスメーカーの担当者などに相談をすることをお勧めします。

補助金は「早めに動く人」ほど活かしやすい

住宅の補助金制度は、内容を知っているだけでは十分ではありません。対象となる住宅性能や世帯条件、申請の流れを早い段階で確認し、家づくりの計画に組み込んでおくことが大切です。特に補助金は、予算枠や申請時期の影響を受けることがあるため、後から検討しようと思っているうちに、活用のチャンスを逃してしまうこともあります。家づくりを考え始めた段階で、土地・建物・資金計画とあわせて補助金も整理しておくことで、無理のない計画につながります



～2026年の補助金情報を活用して、賢く家を建てよう～

補助金を活かすには 性能と進め方を一緒に考える

高性能住宅は、補助金だけでなく暮らしの安心にもつながる

GX志向型住宅は、断熱等級6以上、再生可能エネルギーを除く一次エネルギー消費量の35%以上削減、再エネを含む一次エネルギー消費量100%以上削減、高度エネルギーマネジメントの導入などが求められる高性能住宅です。これは単に補助額が大きいという話ではなく、光熱費の抑制や、これからの住宅性能基準を見据えた住まい選びにもつながります。補助金をきっかけに、これから長く安心して暮らせる性能を考えることが重要です。



補助額だけで判断せず、土地・間取り・予算をまとめて考える

住まいづくりを考えるときは、補助金の金額だけに目を向けるのではなく、土地条件、必要な部屋数、暮らしやすい動線、将来を見据えた性能、そして総予算をバランスよく考えることが大切です。ひとつだけを優先して決めてしまうと、あとから「理想の間取りが入らない」「予算が合わない」といったズレが出ることもあります。だからこそ、家づくりは土地と建物、性能と資金計画を一緒に考えながら進めることが重要です。全体を見渡して整理することで、補助金もより効果的に活かしやすくなります。

申請は後からではなく、計画段階から組み込むことが大切

家づくりを考え始めたら、補助金のことにも早めに確認しておくことが大切です。補助金は、建物の性能や申請時期など、いくつかの条件を満たすことで活用できるため、あとから検討するよりも、最初から計画に組み込んでおくほうが安心です。土地選びや間取り、予算配分とあわせて補助金の活用を考えることで、無理のない住まいづくりにつながります。制度は内容がわかりにくい部分もあるため、ハウスメーカー担当者と一緒に一つひとつ整理しながら進めていきましょう。



HEBEL HAUSなら、みらいエコ補助金申請も安心

ソーラー（太陽光）パネルを搭載しZEH基準を維持する それがHEBEL HAUSの標準



ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）とは、断熱化・省エネ化・スマートエネルギーの活用により年間エネルギー消費量がゼロ以下となる住まいのことをいいます。

HEBEL HAUSの「LONGLIFE ZEH」は、国が定めるZEH基準を超え、ロングライフという視点で耐久性の高い断熱材と自然の恵みを活用し、家計にもやさしいプランニングを実施しています。

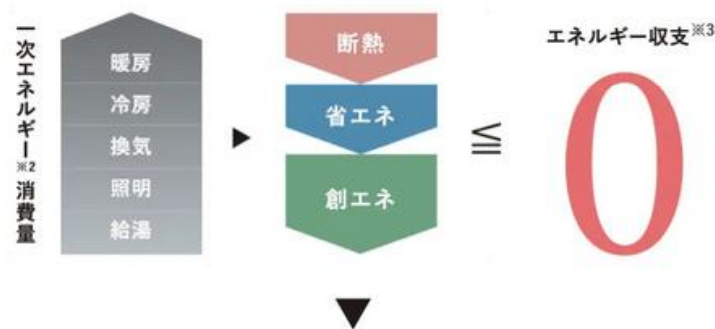
ヘーベルハウスの断熱基準

断熱等級 $6^{\text{※1}}$ | UA 値 ≤ 0.46 以下
ZEHの高断熱基準は「0.6以下」

UA値：外皮平均熱貫流率。値が小さいほど熱の逃げにくい家となります。

[ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)]

断熱・省エネ・創エネを組み合わせることでエネルギー収支がゼロ以下になる住まい



LONGLIFE ZEH

耐久型断熱だから、ZEH基準を超える性能が長くつづく

※1 建築エリアによって断熱等級の基準は異なります。

※2 一次エネルギーとは、自然界に存在している形そのままのエネルギーのことで、石油・石炭・天然ガス・発電用の水力・太陽光などを指します。

※3 年間の一次エネルギー収支が正味(ネット)でおおむねゼロ以下。

新築時だけでなく、半世紀後も続く [耐久型断熱]

ヘーベルシェルタードダブル断熱構法



ALCコンクリート・ヘーベルと高性能断熱材を一体化させた二重構造を外壁・屋根・1階床に形成。鉄骨躯体をこの二重の「断熱ゾーン」で連続的にくみみます。

断熱ゾーンと完全に分離した「配管・配線ゾーン」を設けることで断熱材の欠損を低減しています。

住宅以外でも活躍するネオマフォーム

断熱性はもちろん、安全性や軽量性も高く評価されており、多方面にわたって採用されています。



【寺院】文化財収蔵のため断熱性及安全性が求められる。



【医療用血液輸送バッグ】厳密な温度管理が必要。



【劇場施設】不特定多数の人が集まるため防災面での性能が期待される。

ALCコンクリート・ヘーベル

ヘーベルハウスが採用している「ALCコンクリート・ヘーベル」は、一般のコンクリートに比べ約10倍の断熱性能で、暑さや寒さを遮り結露の発生も防ぎます。

また遮音性、調湿性などの性能に加え、耐久性、高い強度、寸法安定性、耐火性などの複合性能を60年以上にわたって維持し、安心して快適な暮らしをずっと守ります。



住宅以外でも活躍するALCコンクリート・ヘーベル

断熱性に加え、室内環境を理想的な状態に保つ調湿性及耐火性能などの高い複合性能が評価され、寺院や美術館などでも採用されています。



JFEグループ社員の皆様

私が
担当
します！



担当者：駒井雄介

今まで手がけた家づくりは150棟以上。
数多くのお客様の想いをカタチにさせていただきました。
家づくりにはコスト・間取り・将来性・税金・補助金・ローンなど、多岐に渡って注意すべきポイントがあります。
JFEグループ社員の皆様には、特典や割引もご用意しております。是非、お気軽にご相談ください。



JFEグループ社員様専用サイト



紹介状発行で
提携割引

家づくりに役立つ
情報発信

来場予約で
追加特典

リモートでの
ご相談もOK

特典をお受けになる場合は専用サイトからの紹介状発行が必要です

<https://www.asahi-kasei.co.jp/ihinavi/jfe-g/>



提携割引制度等の特典利用ご利用される場合は、窓口である弊支店とのファーストコンタクト・ご成約ファ上り圏となります。東京法人支店以外の担当とすでに接触されている場合は対象外となりますので、ご注意ください。

こちらの予約なしに直接展示場へ行かれましても上記特典がお受けになれませんのでご注意ください。

